

令和2年度 西都市立都於郡小学校 学校関係者評価書（教職員・評議員一覧）

【学校の教育目標】 「夢や希望をもち、自己実現をめざし、たくましく生き抜く子どもの育成」
 【本年度重点目標】 ○ 確かな学力の向上 ○ 明るく楽しい学校生活の実現 ○ 心身の健康及び安全教育の充実 ○ 特別支援教育の充実

4段階評価 4：達成 3：ほぼ達成 2：不十分 1：改善を要する

評価項目	評価指標	成果（○）・課題（●）・改善策（◎） ※文頭に記号をつけて記述する	教職員評価	関係者評価	コメント
確かな学力の向上	「授業の目標やねらい」「学習のめあて」「まとめ」の整合性のある授業実践や、4つのチェックポイントを意識した日常授業の改善を通して、「分かる・できる授業」の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 常に教材研究・授業準備を丁寧に行い、「単元・授業の目標」「学習のめあて・まとめ」を意識した授業を実践してきた。特に、ワークシートを活用したノート指導及び板書の画像記録・復習の時間における基礎的な知識の習熟・活用を図る指導等に力を入れ、徐々に定着・徹底してきている。 ○ ワークテストでの目標達成ができた。 ○ 児童が「分かる・できる」授業を目指し、授業準備を行った。 ○ 4つのチェックポイントを意識して授業を行った。 ○ 算数では前時のおさらいを必ず行い、授業を進めるようにした。理解が不十分な児童には個別指導を行った。 ○ 授業のねらいをしっかりとって授業を進めるように努めてきた。個人差も見られるので、学力の低い児童も学習内容の確実な定着を図るため、3学期は習熟の時間を十分確保し総復習に力を入れた。 ○ めあてとまとめの一貫性を意識した授業づくりは実践できた。 ○ 児童の実態や興味・関心に応じた指導内容を工夫して取り組み、目標を達成することができた。さらに、指導段階を考慮しながら指導に取り組んでいきたい。 ● 個別指導の必要な児童が多く、十分に指導できなかった単元もあった。 ● 課題の与え方が不十分で、対話的な学びを充実させることができなかった。 ◎ 児童が「話し合いたい」「この問題を解決したい」と思えるような授業の導入を工夫したい。（課題設定、発問の工夫など） 	2. 9	2. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上には、できるだけ個人差を小さくしていくことが大切であり。個人指導や課題設定の在り方を引き続き工夫してほしい。 ・ アンケートを含めて、家庭学習や読書等で成果が見られていない。学校からの指導強化など、改善のための方策を講じてほしい。 ・ 休校等で限られた時間の中で苦慮されていると思う。 ・ それぞれの先生方で教え方の工夫はされているが、学力向上のための具体的な方策が統一されていない気がする。（進級する度にやり方が変わり過ぎると困惑すると思う）また、ハンドサイン等を活かし、授業のスピード、教え方を変えてもよいのではないか。 ・ 学力テストの結果が市の平均を上回っていると聞き、子どもたちへの学習指導がしっかりできていると感じる。 ・ アンケートより保護者の約30%が家庭学習に取り組んでいないと回答しているが、学校の成果では全員が家庭学習に取り組むことができたこととある。今一度、現状の把握に努めることが必要であると感じた。
	各種学力調査における活用問題解決のための研究に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活用問題を解く力をつけるために、基礎的な知識・技能に関する確認 → 活用型問題の集団解決→確認問題・活用問題の自力解決 という授業スタイルを確立し、授業実践によって効果を検証することができた。 ○ 問題集（スイッチオン）の活用が図られた。 ○ 問題集（スイッチオン国語・算数）を中心に朝やスキルタイムの時間に取り組むことができた。 ○ 活用問題を意識して取り扱うスキルタイムを設定し実践することで、児童の学ぶ意欲の向上や、問題解決学習における対話的な学び合いの姿が広がった。 ○ 校内研修の一環として、毎週水曜日5時間目を活用型問題の演習時間に設定し、取り組んだ。 ○ スキルアップタイムを活用し、基礎的な問題から取り組み、活用型の問題にも多く取り組めた。記述式の問題にも進んで取り組む児童が増え、半数以上が自分の考えの説明を書くことができるようになった。 ● 個人差に対応した活用力を高める指導 ● 児童は問題を解くことに慣れ、何とか解こうと努力しているが、誤答も多い。 ● 基礎学力をもっとつけたい児童の学力向上を図る個別指導の時間確保にも力を入れる必要がある。 ● 条件にあった記述が難しいため、点数に結びつかない場合がある。 ● 児童の実態により、活用問題につながる解き方や基本的な問題などを行った。 ● 児童の学力の分析をさらに進め、さまざまな活用問題に取り組ませるようにしたい。 ◎ 低学年における基礎基本の徹底が必要である。 ◎ 過去問をさせるときに、解決の糸口が文中にあることに慣れさせる。 ◎ 普通の授業でも、活用型の問題を習熟の時間にもってくるなど、日常的な取組をしていく必要がある。 ◎ 習熟を図るとともに、例題を解き、正答を導けるよう指導したい。 			
	家庭との連携を図り、家庭学習や読書活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ P T A稲作実行委員会での関わりを通じて、第5学年における総合的な学習の時間の「稲作体験活動」を充実させることができた。 ○ 読書活動の充実を図るため、週に一度は図書室を利用するよう努めた。 ○ 通信や連絡帳、電話連絡を通して家庭と連携を図ることができた。 ○ 週に1度、朝読書行ったり、テスト終了後に読書の時間を設けたりと、定期的に読書の時間を作り、読むことができた。 ○ 家庭学習（ノート）は、頑張りカードを作成し、意欲の持続化を図った。 ○ 週1～2回は、図書室に行く時間を意識的に設けた。全体的に読書量がアップした。 ○ 日々の家庭学習の内容の見届けや指導を行い、習慣化を図ってきた。積極的な図書利用の呼びかけや授業での図書活用に取り組めたことで、読書に親しむ習慣や、図書から学ぶ学習も充実できた。 ○ 全員が家庭学習に取り組むことができた。 ○ 毎日、学校と家庭での出来事、児童の様子などについて情報を交換し、学習や生活指導への理解と協力を得ることができた。 ○ 毎週、図書室の本を借りることができている。 ● 読書の取組については、個人差がある。 ● 読書量の個人差 ◎ 絵本から長文の本への移行期に読むとよい本を選び、本の回覧をする。 			

	<p>地域と連携した教育活動を充実させることにより、自ら学ぶ意欲や学び方の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学力向上に関わる学校としての取組を、家庭へ具体的に情報発信することができていない。 ◎ 授業時数が厳しいながらも、どうにか時間を見つけ、学級全体で読書に取り組む時間を設定していく必要がある。 ◎ し好の偏りがあるため、読書月間の取組などを活用し、読書の良さに気付かせる。 ○ 外部講師を活用した「非行防止教室」「情報モラル教育」「味覚の授業」「土木の日の見学活動」等を実施し、教育活動の充実を図るとともに、キャリア教育の充実にもつながった。 ○ 社会や総合的な学習の時間では、地域の様子を調べ、自分の身の回りは地域に支えられていることを知らせることができた。 ○ 地域の方々の協力を得て、生活科の「町たんけん」を実施することができた。 ○ 社会見学や総合的な学習の時間での、地域を生かした学習において、体験的な学習を取り入れて計画的に学習ができたことで、学習内容の理解も深まり、主体的な学びにつながった。 ○ 情報モラル教育や味覚の授業など、専門的な立場の方から話を聞くことができ、学びが深まった。 ○ 総合的な学習の時間にまとめた「西都のよさ」を、修学旅行先の餌肥でPRできた。他地域の方との関わりの中で、西都のよさ、都於郡とのつながりを学ぶことができた。 ○ 2組としては、自立活動の時間に「買い物に行こう」で地域のスーパーを利用し、体験をもとに社会性のスキル獲得の場を設定した。 ○ 「土木の日」、「味覚の日」の実践が、児童の自ら学ぶ意欲や、職業教育の充実につながっている ● 本年度は、地域と連携した教育活動が十分に実施できなかった。が、内容や時期について、見直すいい機会にもなった。 ● 新型コロナウイルス感染症の影響で、予定・計画していた行事が実施できなかった。 ● 今年度はコロナのため、さいと学でお年寄りとの交流ができなかった。 ● 地域に住まわれる方と連携した教育活動ができなかった。 ◎ 総合を中心として、地域人材を活用した指導計画を立てておく必要がある。 			
<p>明るく楽しい学校生活の実現</p>	<p>指導事項の共通理解と共同実践、家庭との緊密な連携により、「あたりまえのこと三か条」の定着や基本的な生活習慣の育成に努める。</p> <p>道徳の時間の充実により、豊かな感性を育むとともに、規範意識や自主性、社会性の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活目標にそった指導の工夫（廊下歩行・整理整頓）ができた。 ○ 4月に比べ、基本的な生活習慣が身につけてきている。 ○ きまりを守り、生活できる児童が多かった。 ○ 挨拶やトイレのスリッパ、委員会活動等、学校のリーダーである高学年としての自覚と行動力を高めるよう指導を重ねてきた。 ○ 通信や懇談等の折に、望ましい生活習慣の確立へ向けて保護者に呼びかけもできた。 ○ 学級の児童に関しては、担任だけでなく、他の先生にも挨拶をするようになった。 ○ 本年度は、感染予防の関係で参観日の設定が少なく、なかなか直接啓発することができなかった。通信や個別面談を通じて、その家庭にあわせてお話しし家庭の協力を得ることができた。 ● 「挨拶」「返事」「整理整頓」が徹底できていない児童が見られる。もう少し、家庭への啓発・協力を求めたい。 ● 挨拶や返事の声が小さい。継続して、全職員で指導に取り組んでいきたい。 ● あいさつ・返事ができない。 ● 挨拶、返事などの声が小さく、まだまだ指導が必要である。 ● 自主的な挨拶の習慣育成のため、学校全体としてもっと力を入れる必要がある。 ● 自分の学級、学校全体を見ると、挨拶、返事は教師側から声をかければできるが、児童の自発的な行動はない。 ● 「あたりまえのこと三か条」は、もう少し充実が見られない。一つ一つのことを重点的に大切に組みませたい。 ● 挨拶や返事が小さい児童がいる。 ◎ あいさつ・返事の指導週間⇒継続的な指導 ◎ 声掛けと意義の説明を今後も行っていく。 ◎ 個別に指導の必要な児童には引き続き指導を行っていく。 ◎ 挨拶や返事の意義から指導していく。教師自身が元気のよい挨拶を実践する。 ○ 自分の考えと友だちの考えを比べさせながら、話し合いを進めることができた。 ○ 計画的に実践できた。 ○ 交流学級での実践に頼むところが多いが、1年生に関しては2組で道徳をすることが多く、資料を用いたり児童の経験を振り返ったりしながら、個別に道徳性を高めていくことができた。 ○ 道徳の時間は指導の充実により、児童自ら価値について自分との関りにおいてよく考えて取り組んでいた。 ○ 週に1時間、道徳科の授業を定期的に行った。 ● 公道を走るトラックへの唾吐きなど、規範意識・公德心に欠ける児童がいたりして残念だった。 ● 道徳ノートが効果的に使えなかった。 ● 授業の内容について理解はしているが、行動にはまだつながっていない。 ● 児童の特性上、教材に出てくる主人公の気持ちに寄り添ったり、話の内容をすぐに理解したりすることができないため、深まりのある話し合いにもっていくことが難しかった。 ● トイレのスリッパが並んでいない。 ◎ 自分自身のこととして深く考えられるよう、体験的な学習を行いたい。 ◎ ワークシートの作成が必要である。 ◎ 授業は全部実施できているが、資料の効果的な扱い方や、考え議論する学習のあり方など、指導の工夫 	<p>2. 8</p>	<p>2. 8</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予想以上にあいさつや返事が徹底していない評価になっている先生、保護者と連携し、早い段階で自発的にできるよう取組の強化を図ってほしい。 ・ 地域での挨拶は、個人差が大きくなかなか変容することは難しいが、根気強く、地域住民による働きかけをすることが必要だと思う。 ・ 明るく元気に挨拶ができている。高齢者に優しい子どもが多くなったと思う。 ・ 登下校、学校生活でよいこと、悪いことを先輩の姿を見て教えられたことを覚えている。 ・ 異学年との生活、活動を通して学ばせることも必要と思う。 ・ 日常のルールなどみんなよくできていると思う。 ・ 「いじめ防止」にも努めている学校の体制はとても評価している。 ・ 基本的な生活習慣が身に付いていない児童が目についていることに対する課題が示されている。子どもたちがコロナの影響もあり、心が不安定になっている感じもする。更なる学校と家庭の連携が必要であると感じた。

	<p>「学校いじめ防止基本方針」の活用といじめの未然防止に努める。</p>	<p>の手立てを研修し、児童の道徳性の向上を図りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 役割演技等に積極的に取り組み、どの児童も考えが深まるように指導の改善にあたりたい。 ◎ こまめに点検を行い、指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ いじめの未然防止に努める体制は構築できており、定期的な情報交換・対策会議も実施できている。 ○ 児童の悩みや変化については、アンケートや教育相談の実施によって把握し、上がってきた事案については、担任や管理職と相談しながら対応できている。 ○ いじめにつながる大きなトラブルはみられなかった。 ○ なんでも相談アンケートの活用によって、小さいいじめを早期に発見でき、対応することができた。 ○ アンケートや教育相談を実施し、情報共有や指導の連携を図ることができている。気になる児童はその後の経過を把握し続け、誰もが安心して楽しく過ごせる学校生活であるように今後も努めたい。 ○ 女子同士のトラブルを解決できたが、学級全体の人間関係は希薄になっていたため、互いのよさを認め合う取組を定期的に行った。 ○ いじめ防止のための日常指導や、人権指導の取組に関する実践により、いじめにつながる事象の防止に努めることができた。 			
<p>心身の健康及び安全教育の充実</p>	<p>体力向上プランを活用し、基礎体力の向上及び健康意識の高揚を図る。</p> <p>非常時の避難訓練や日常の安全指導の充実を通して、防災・安全意識を高め、危険予測・回避能力の育成に努める。</p> <p>給食指導や食に関する指導の充実及び学年の発達段階に応じた「弁当の日」の実践等により、食育の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外遊び・手洗い・うがいの励行 欠席や体調不良の児童がほとんどいなかった。 ○ 欠席も少なく、身心ともに健康に過ごせている。 ○ 体育の時間の運動量確保、昼休みの外遊び推進ができた。 ○ 5・6年は校内陸上記録会を設定したことも、体力向上につながった。 ○ 健康チェックカードの活用により、自らの健康を日々意識して過ごす習慣が身についてきた。 ○ 体育の授業の始めにサーキットを入れたり、走る運動を入れたりして取り組んだ。 ○ 高学年の陸上記録会を実施し、体力向上の意識を高めることができた。 ○ 掲示物や放送、保健だより等を使って全児童へ手洗いやマスク等の励行を行った。 ○ 大きなけがや病気等もなかった。 ○ 「さわやかチェック」で健康意識の確認を行い、全項目90%以上を達成した。 ○ 持久走、なわとびの計画など係より積極的に運動の提案があり実施できていた。 ● 新体力テストが未実施のため、客観的データとそれに合わせた対策ができていない。 ● コロナ禍の中、清潔に活動する意識はついてきたが、運動の機会が減ってきている。 ◎ 衛生面に気を付けながら、基礎体力が向上するよう、様々な遊びを提案していきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 避難訓練への真剣な取組ができた。 ○ 避難訓練とともに、社会科の「消防・警察」の学習を通して、自分にできる防災を考えることができるようになった。 ○ 避難訓練前後や折に触れ、安全についての話をしてきた。 ○ 日頃から校内の安全や登下校時の安全について丁寧に指導を重ねるとともに、「保健」の授業でも危険予測・回避についての指導を行った。安全意識の向上につながっており、事故やけが等はなかった。 ○ 避難訓練は計画的に実施できた。 ○ 避難訓練に真剣に取り組む姿が見られ、防災・安全意識の定着につながった。 ○ けがをした児童に対して、応急手当の方法と併せて日常の学校生活の中での過ごし方等、安全指導を行うことができた。 ○ 児童は大きなけが等もなく、落ち着いた学校生活を送ることができている。 ● 中には突発的な行動で危険なこともあった。 ● 防災・安全意識を高める日常的な指導は不十分だった。また、避難訓練の際の無言行動が徹底できていなかった。 ◎ 行動前の一斉指導の徹底 ◎ 防災意識を高めるための日常的な指導、児童への啓発を行う。避難訓練時の事前指導もしっかりと行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養教諭による授業や「弁当の日」の実施により、食に関する意識は高まっている。 ○ 学級全体での残食ゼロの指導の徹底 ○ 全員が何らかの形で「弁当の日」を意識したお弁当を作ることができた。 ○ 偏食の児童も量を調整しながら、完食できることが多かった。 ○ 給食残さいゼロを心掛けて日々努力できた。 ○ 味覚の出前授業の実施や、家庭科の食分野の調理実習など、体験的な学習を取り入れることで、児童の理解を深め、生活に生かすことができた。 ○ 家庭科の授業を中心に、食育指導を行うことができた。また、学んだことを生活に生かすよう、家庭で朝食作り等に取り組ませた。 ○ 「弁当の日」の実践にどの児童も取り組めた。 ○ 給食や食への関心が高く、十分な栄養をとることができている。 ○ 「味覚の授業」や栄養教諭の授業、「弁当の日」などの取組を通して、食育の充実を図ることができた。 ● 給食残食ゼロを目指した取組が不十分である。 ● 偏食がある児童が多く、給食指導の限界を感じている。 ◎ 時間を意識した給食指導 ◎ 無理のない範囲で、声をかけ、少しでも味わうよう指導していく。 	<p>3. 0</p>	<p>2. 9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の新型コロナウイルス感染拡大の経験等を活かしながら、心身の健康の充実に向けた取組（新しい生活スタイル）のモデルを定着して欲しい。 ・ 朝食を食べてきているかについて、子どもに聞いたりされているのでしょうか。「弁当の日」に持ってこない子どもはいますか。 ・ 保護者の協力をもっと活用すべきだと思う。 ・ 体力の低下もなかったと思われるので、この状況でも学校生活の中で、たくさん運動ができているのだと思う。 ・ 偏食がある児童が多いという課題があるが、家庭での食生活に偏りがあるように思う。家庭で何を食べているかの聞き取りも必要かと思う。

<p>特別支援教育の充実</p>	<p>特別支援教育体制の整備・充実により、きめ細やかな支援や合理的な配慮を必要とする児童への教育指導の充実に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誰にでも分かりやすい指導を意識した。 ○ 保護者と密に連絡を取り、個人面談や取り出し指導を行ったことで、気持ちのコントロールができるようになった児童がいる。 ○ 特別支援コーディネーターに児童の状況を報告し、相談しながら進めることができた。 ○ 学級内にいる児童については、個別の支援計画を作成できた。保護者と面談を重ね、一緒に作成できた。 ○ 一人一人の特性に応じた支援の仕方がなされ、学校生活の充実がなされている。 ○ 保健室来室児童に対して、個々の児童の発達段階等に合わせた、個別指導・支援を行うことができた。 ● すべての児童に目配りできるよう、余裕をもって指導に当たりたい。 ● 支援計画の作成に関して、職員ごとにばらつきがある。 ◎ 特別支援教育の外部研修会など機会があればぜひ参加し、児童の多様性を理解して、児童や保護者に寄り添う支援のあり方を学び、資質向上に努めたい。 ◎ どの児童に関して支援計画を作成するのか、学校としての考えが示されるとよい。 	<p>2. 8</p>	<p>3. 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援を要する1年生入学当初、登校班に任せるのは無理がある事態が数回あり、保護者に連絡を取り、来てもらえるまでは、保護者の見守りが必要である。また、そのような児童を抱える班には、随時班長への聞き取りを行い、様子を把握して欲しい。 ・ 困ったことがあった場合、相談に乗っていただき、アドバイスをしてもらえており助かっている。 ・ 多様な子どもたちの指導は、先生にも限界があると思う。低学年のうちには、都於郡小学校でもよいと思うが、3、4年生になるときは、特別支援(学級)学校という選択も子どもたちにとってはよいのではと思う。
	<p>特別支援教育の意義について保護者や地域への啓発に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人的に保護者との情報交換に努めた。 ○ 関係機関と連携したほうがいいと思われる児童については、個別に連絡を取り話すことができた。 ○ 懇談会で話題にすることができた。 ● 保護者の啓発はできているが、情緒不安定で、暴力的な児童がいて心配である。児童相談所等、関係機関の活用が必要ではないか。 ● 全体的な啓発は行っていない。 ● デリケートな問題なので、限られた時間で正しく伝えられたかどうか自信がない。 ● 特別支援教育について情報を全体に広く発信し、保護者や地域への啓発につなげていく必要がある。 ● 特別支援教育の意義について、さらにいろいろな方法で啓発を行っていくようにしたい。 ● 講演会や便りなど全校への発信が係からできなかった。 ◎ 今後も啓発を行っていく。 ◎ 今年度は啓発の機会をつくることは難しかったと思うが、文書を配付するなどして取り組むことも必要ではないか。 ◎ 保健だよりなどの一部に載せていただくことも検討する。 			
	<p>特別支援教育の研修の充実に努めるとともに、関係諸機関との連携を積極的に推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修を受けることで、理解を深めることができた。 ○ 通常学級と支援学級の連携を密にし、情報交換を行うことで指導をスムーズに行うことができた。 ○ 関係機関の助言や指導も得ながら、支援の必要な児童や保護者に対して対応を進めてきている。対話を重ねながら、改善に向けて今後の方向性を探っていきたい。 ○ 定期的に研修は行われた。 ○ 関係機関との連携を深め、児童理解や指導改善を行うことができた。 ○ 西都市のアドバイザーの支援を積極的に活用できた。 			